



## 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

# 2009 年度報告 & 2010 年度計画

## 1. 2009 年度 現地事業報告

### 1-1. 約 2 万 6 千本の苗木を植樹

苗畑を拡充、約 2 万 6 千本の苗木を育成・植樹しました

表 1 各年度の本数

年度	本数
1996	49,500
1997	71,700
1998	76,800
1999	72,300
2000	70,200
2001	45,300
2002	47,000
2003	47,700
2004	51,600
2005	50,400
2006	73,200
2007	57,400
2008	21,100
2009	25,900
合計	760,100

苗木の育成本数（植樹本数）を増やすために苗畑の拡充をすすめ、ドバ村・ベガ村にはあたらしい苗畑を建設しました。苗畑管理人を 4 名雇用し、苗畑の拡充・管理・運営、苗木の育成、村人に対する植樹の指導などをおこないました。苗畑管理人らを対象にした苗畑運営・植林セミナーも開催しました。セミナーの内容は、苗畑と共有林のマネージメント、苗床の作り方、記録のつけかた、種子の選び方などでした。

昨年度は 25,968 本の苗木を育成・植樹しました（2010 年 6 月現在）。これにより、1996 年からこれまでの苗木育成・植樹本数の合計は約 76 万本となりました。

樹種は、主に、マツ、ハンノキ、サクラ、ポンカン、インデアシローズウッド、飼料木、ロクタ、イラクサなどでした。ポンカンは増産されれば販売することにより収入向上にむすびつきます。ロクタとイラクサの育成は紙漉・織物事業の発展に寄与します。

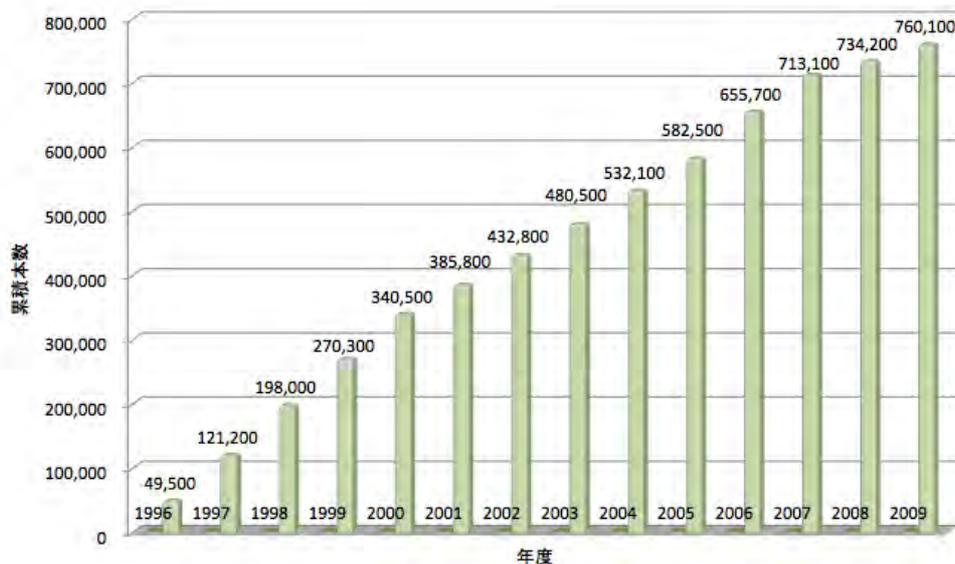


図 1 累積本数

## 生活林づくりプロジェクト -第3フェーズ- (ナルチャン村・サリジャ村) を終了



図2 生活林づくりの上に生活改善・収入向上の各プログラムをつみあげていく

ネパール・ヒマラヤでは、いちじるしい人口増加とともに森林の減少がすすんでいます。それは、ネパール・ヒマラヤで暮らす人々が、生活（堆肥や薪、家畜飼料の採取など）のため森林を伐採しなければならないからです。森林が伐採された後には荒廃地がのこり、地域の環境破壊が深刻な問題になっています。

森林を利用し、それを減少（後退）させたのは住民ですが、一方で、住民は森林に依存した生活をしているため、森林が後退することにより住民の生活はくるしくなります。そして住民は、森林伐採を奥地へとさらにすすめ、生活が一層くるしくなるという悪循環が生じてしまっています。そこでヒマラヤ保全協会は、森林を再生させるとともに、住民の生活を改善し、地域を活性化させることを目的に「生活林」づくりプロジェクトを実施しました。

「生活林」とは、地域住民の生活に根ざした、住民の生活に役立つ森林であり、日本でいう里山に相当するものです。ヒマラヤの山村民は、今日でも森林に大きく依存したライフスタイルをもっているため、「生活林」をつくりだすことにより、薪・堆肥・家畜飼料・材木などの森林資源が住民に供給されるようになり、住民の生活がうるおいまた改善されます。他方、ヒマラヤ保全協会の事業地は、地滑りや山崩れなどの自然災害が多発しているため、その対策となる地域防災にも大きく貢献できます。さらに、森林資源を有効に活用した収入向上プログラムなどの実施により地域の活性化も実現できます。こうして、自然環境と住民の生活を調和させ、森林と人間とが持続的に共存していく道をひらいていくことができます。

### 紙漉事業と織物事業

ロクタを加工する紙漉施設ならびにイラクサを加工する織物施設を、それぞれ、サリジャ VDC 第6地区（サリジャ）とサリジャ VDC 第7地区（パタルカルカ）において建設しました。これらの所有権は各村が保有します。サリジャ地区には、森林資源としてロクタ（ミツマタの類種）とイラクサが存在します。ロクタは、プロジェクト地内の約 50 ヘクタールの地域に、イラクサは約 24 ヘクタールの地域に多数自生しており、資源量は十分あります。

紙漉施設は、作業小屋（建物）を完成させ、必要機材をすべて供与し、ロクタ紙を加工生産、紙漉事業（製造販売）を実際に始めました。織物施設は、織機を設置する織機小屋、縫製小屋、トイレ、水道、敷地の防護壁などを建設し、織物事業（製造販売）を開始しました。住民の中には、ロクタおよびイラクサ加工に関する研修をすでに受け、その技術を習得している者が 10 数人程度いたため、その人達がほかの住民を指導することにより、加工生産体制を確立することができました。

本事業地では現金収入がほとんどないため住民は非常に貧しい生活をしていますが、住民の収入向上がある程度できるようになったので地域社会の発展にとって大きな刺激になり、森林資源を有効に活用しながら地域住民の収入を向上させ、同時に、森林保全事業をすすめられる道を切りひらくことができました。

加工品は、紙や生地の中製品として、パルパット郡クスマや、ネパールの中核都市であるポカラ、カトマンドゥなどの製品加工工場に卸すことができました。森林資源を活かした地場産業としてさらに成長できるようにまずは基本的な体制をつくりました。

### **トレール（trail、通路）建設**

平成 19 年度に建設した、集落と森林地域とをむすぶ、森林資源運搬用のトレール（通路）を約 10km 延長し、堆肥・薪・家畜飼料・果樹・材木などの運搬、家畜の移動にかかわる住民の労働を軽減しました。家畜を森につれて行き餌をあたえることも容易になりました。特に、子供や女性が運搬労働に従事することが多かったので、子供や女性にとってこの効果は計り知れないものとなりました。

運搬が容易になったので、集落近辺の木を切らずに比較的遠くの森から広く薄く伐採することが可能になり、森林保全にも大きく寄与することになりました。また、物資の運搬が容易になることは、住民の所得向上を目的とした地場産業発展のためにも非常に有益でした。通路がよくなったので 1 回につき 40kg 程度は運べるようになりました。

### **1-2. エコ・プロジェクト -ゴミ処理・観光ルート美化-**

ネパールでは、ライフスタイルの変化、ツーリストの流入などにより、様々なゴミが多量に廃棄されるようになってきました。そこで、エコツーリズムをキーワードに、村にゴミ箱を設置し、ゴミ集積場を建設するプロジェクトをおこないました。昨年度は、キバン-ナルチャン地域において実施しました。住民を対象にしたワークショップも開催し、環境教育もすすめました。

### **1-3. その他の事業**

教育支援（奨学金支給）：ネパール山村僻地の子供たちを育てるために、めぐまれない環境にありながらもよく勉強する小中高生 65 人に奨学金を支給しました。保健衛生教育：43 人の生徒に、HIV/AIDS 教育をおこないました。

## 2. 2010年度 現地事業計画

### 2-1. 生活林づくりプロジェクト

2010年度も、住民と環境との調和をめざして、生活林づくりプロジェクトを推進し、自然環境を保全するとともに、地域の活性化をはかります。

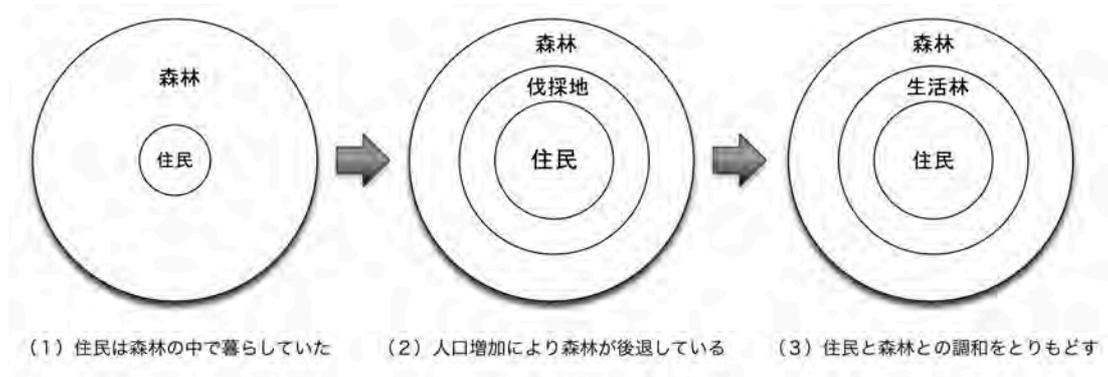


図3 生活林づくりにより調和をとりもどす

かつては、住民は森林の中で自然と調和して暮らしていましたが(1)、人口が増えたために住民の領域が拡大し、同時に森林の伐採がすすんで伐採地が増え、森林は後退してしまいました(2)。そこで、伐採地を生活林に変えることにより森林の後退をくい止め、また、住民の生活を改善し、人間と環境との調和をとりもどします(3)。



図4 事業地の位置

## 植林活動 - 目標：4万本の苗木育成・植樹 -

従来のアンナプルナ地域に位置するナルチャン村・サリジャ村においては、苗畑を運営し、植樹活動を継続します。一方、アンナプルナ地域の西側に位置するダウラギリ地域のドバ村・ベガ村においてはあらたな植樹活動を開始します。昨年度に建設した苗畑はさらに拡充し、苗木育成本数を増やします。2010年度は、のべ4万本の苗木育成・植樹を目標にしています。

今年度4万本が達成された場合、2010年度までの植樹本数累計は80万本となります（表2）。ヒマラヤ保全協会では、2014年度に100万本を達成することをめざしています。

各村においては、苗畑管理人を雇用、植林地のフェンシングをおこないます（家畜などの動物に苗木が食べられないようにするため）。また、事業推進・現地指導のために専門家の派遣もおこないます。樹種としましては、従来通り、マツ・ハンノキ・飼料木にくわえ、換金につながる果樹にもとりくみます。

表2 植樹計画表（案）

地域		項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
アンナプルナ地域	ナルチャン村 サリジャ村	苗畑拡充	→						
		苗畑完成		→					
		苗畑維持・管理			→	→	→	→	→
		植樹&本数	20,000	30,000	20,000	20,000	20,000	20,000	10,000
ダウラギリ地域	ドバ村 ベガ村	事前調査	→						
		苗畑建設		→					
		苗畑拡充			→				
		苗畑完成				→			
		苗畑維持・管理					→	→	→
		植樹&本数			20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	ラウガート流域 ミャグディ流域 (新事業地)	事前調査	→	→					
		苗畑建設				→			
		苗畑拡充					→		
		苗畑完成						→	
苗畑維持・管理							→		
植樹&本数						10,000	20,000	30,000	
植樹本数合計			20,000	30,000	40,000	40,000	50,000	60,000	60,000
植樹本数累計			730,000	760,000	800,000	840,000	890,000	950,000	1,010,000

## 生活改善プログラム

現地の村々にはプロパンガスなどは普及しておらず、村人は今でも薪を燃料として調理をおこなっています。薪の使用量は大変多く、森林後退の原因になっています。そこで、改良金属かまどの普及を今年度からはじめます。これにより、薪の使用量を各家で30～40%減らすことができます。

## 紙漉・織物事業

紙漉・織物事業につきましては、技術者の技能向上トレーニングを今年度も継続しておこない、収入向上事業をさらに発展させていきます。

## 現地調査と計画立案

中期計画（3ヵ年計画）に基づいて、あらたな生活林プロジェクトを開始するために、ミヤグディ川流域・ラウガート川流域（図4）の現地調査をおこない、事業計画を立案します。

### 1-2. エコ・プロジェクト -ゴミ処理・観光ルート美化-

本計画は、〔1〕クリーン・ビレッジ化（ゴミ処理・観光地美化）、〔2〕住民のトレーニング（環境教育）、〔3〕エコツーリズム開発（環境調和型の観光開発）、という3本柱を基軸にしてすすめられ、これらにより、環境保全（公害防止）とともに、住民の衛生管理・生活改善・自立、地域の活性化を目指していきます。

本年度は、スワタ・パウダル・ドバ・ベガの各村において環境保全・観光ルート美化を一層すすめ、環境教育を徹底し、住民の意識をさらに向上させます。ゴミ箱作成・設置、ゴミ集積場の建設や、住民のためのワークショップを実施します。このような事業が成功すれば、これがモデルとなってネパール各地に効果が波及していきます。「世界最貧国」の一つであるネパールの人々の生活を改善するために、また「観光立国」ネパールにとってこれは非常に重要な意味をもつ事業です。

### 1-3. その他の事業

教育支援プログラム：ネパールのめぐまれない子供たち20人に奨学金を支給します。

保健衛生プログラム：高校生を対象に、HIV/AIDS教育を実施します。

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 2009年度報告&2010年度計画

2010年7月30日発行

編集・発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7 シグマロイヤルハイツ403

TEL/FAX:03-5350-8458 E-mail: [ihcjpn@ybb.ne.jp](mailto:ihcjpn@ybb.ne.jp) <http://www.ihc-japan.org>

禁無断転載